

2016（平成 28）年度

新宿自治創造研究所 活動報告

2017（平成 29）年 3 月

新宿区新宿自治創造研究所（SHIPS）

## まちの魅力

新宿自治創造研究所（英文名称 Shinjuku Institute for Policy Studies、略称 SHIPS）は、区職員が学識経験者等と連携して区の重要な政策課題について調査研究を行うとともに、研究活動や人材育成事業、情報発信等を通して、職員、ひいては区全体の政策形成能力の向上を図ることを目的に2008（平成20）年4月に設置した自治体シンクタンクである。発足後9年目にあたる2016（平成28）年度の活動報告を行うにあたり、以下のメッセージを送る。

国内外を旅行する時は、コース、予算、日数、参加人数などを考慮しながら、どこを旅行したらよいかと考える。また、仕事の関係で転勤する際には、新たに住まいを探さねばならない。通勤の便利さに加えて、日常の買い物や、子どもの通学、病院への通院などの便利さ、各種環境の良さなど、いろいろな事柄を検討する。

これらは、旅行先や居住地となる土地の魅力を見定める作業を行っていると言える。魅力は、人の心を引き付ける力のことであり、そのことが通勤、通学、通院、買物、その他の私たちの毎日の活動に強い影響を与える。ある面では、プラス評価となることでも、別の観点からはマイナス評価になることもある。例えば、経済活動が盛んならば、雇用機会も増え、地域の所得や税収も増大し結構なことであるが、その分交通量も増え、騒音や振動も増すことだろうし、大気や水質の汚染の恐れが出てくるかもしれない。

新宿は、全国的にも知名度が高く、経済活動も盛んで、集客能力が高いまちである。住民だけでなく、働く人たち、買物客、学ぶ人、映画・演劇・落語などの娯楽を楽しむ人、その他さまざまな目的で新宿にやってくる人々がいる。新宿の持つ集積力、多様さ、新規性、実験的・挑戦的な試み、その他、新宿のまちとしての魅力について、現在、私たちは探究中である。

さまざまな顔を持つ新宿の魅力を探りながら、研究所は、内外の多様なニーズに応えるべく政策課題を検討し、地域にとって大切なことは何なのかを模索しつつ、調査研究に取り組んでいきたいと考えている。

最後になるが、研究活動や人材育成事業においてご指導いただいたアドバイザーの諸先生方、データ提供や聞き取り調査などにご協力いただいた区や関係団体の職員、区民や団体の皆様などをはじめ、多数の方々のご支援とご協力に対してお礼を申し上げます。

新宿自治創造研究所所長  
金 安 岩 男

2017（平成29）年3月

## 目 次

1	調査研究	4
2	講演会等の開催	6
3	S H I P S通信の発行	8
4	政策立案支援	8
5	学会等への参加・報告・寄稿	9
6	他自治体・シンクタンクとの交流	10
7	新宿区自治フォーラム2017	11
8	資料	13

# 1 調査研究

## (1) 研究テーマにかかる調査研究

### ①テーマ

新宿区第三次実行計画に基づき、2016（平成 28）年度からの 2 年間は、区の長期的な政策課題に関するテーマとして、「新宿区のまちの魅力」の調査研究を行うとともに、政策立案の基礎となる人口・世帯に関するテーマとして、「国勢調査結果からみる新宿区の特徴」の調査研究等を行う。

### ②研究の進め方

研究所の専属スタッフ（所長、副所長、研究員）にアドバイザーを加えたワーキング・グループ検討会議（以下、「WG」）を開催するとともに、専属スタッフによる検討会議を随時行い、研究方針の設定、データの整理・分析、研究の進行管理等を行いながら調査研究を進めた。「新宿の魅力WG」は、研究所の政策形成アドバイザーの牧瀬稔氏をアドバイザーとし、計 4 回（5/2、5/23、6/21、7/19）開催し、その他、専属スタッフによる検討会議を 20 回程度実施した。

### ③研究の内容・成果

#### ア) 新宿区のまち魅力の研究

##### <概要>

新宿区は住む人はもとより、多く通勤・通学者や来街者、外国人観光客などでにぎわっている。しかし、今後、東京 2020 オリンピック・パラリンピック等を契機に、訪れる人の動きに変化が生じ、都市間競争が一層激しくなることが見込まれる。新宿区がいつまでも、「住みたい」「訪れたい」と思えるまちであるためには、新宿区の魅力を見直し、ブランド力をさらに高めていく必要がある。

研究所ではこれまで「住む人」に焦点をあてた研究を行ってきたが、「訪れる人」の視点を加え、多くの人々が訪れ、にぎわう新宿のまちの魅力についての研究を行う。

2016 年度はにぎわいを生み出す源である「人」に焦点を当て、にぎわいの実態把握と意識面からみる魅力の分析を行う。2017 年度はまちの魅力とそのメカニズムを解明し、魅力的なまちであるための方向性を提示する予定である。

##### <研究成果>

・2016 年度の研究成果をまとめ、2017（平成 29）年 3 月に研究所レポート 2016 「新宿区のまちの魅力の研究(1)」(76 ページ) を発行し、研究所ホームページでも pdf 形式で公表した。

##### (構成)

###### ①新宿のにぎわいの実態把握

- ・新宿を訪れる人の実態（パーソントリップ調査からみる人の動き／区外在住者アンケート結果からみる訪問の特徴／居住者の行動からみるにぎわいの特徴）
- ・訪日外国人旅行者の概観（訪日外国人旅行者の概要／宿泊者としての訪日外国人旅行者／ビジネス目的の訪日外国人旅行者）

###### ②意識面からみる新宿の魅力の分析

- ・全国の居住者からみる新宿の魅力（地域ブランド調査の概要と指標別ランキング／主要指標の分析／魅力度の関連要因の分析）
- ・区民及び訪れる人からみる魅力の分析（新宿のまちに対する意識と意向／新宿のまちの良さ／新宿のまちのイメージ）

###### ③今年度の研究のまとめー持続可能な魅力あるまちに向けてー

## イ) 国勢調査結果からみる新宿区の特徴

### <概要>

- ・ 2015（平成 27）年に実施された国勢調査の集計結果のうち、総務省統計局が順次公表するデータから新宿区の特徴を整理・分析し、公表する。2016 年度は、10 月に公表された人口等基本集計結果により、「新宿区の概要」をまとめ、ホームページで公表した。

### <研究成果>

- ・ 2017（平成 29）年 1 月に研究所 Web レポート「2015（平成 27）年国勢調査・人口等基本集計結果－新宿区の概要－」をホームページで公表（pdf 形式）した。

### （構成）

- ・ 人口総数
- ・ 年齢別人口
- ・ 配偶関係別人口
- ・ 外国人人口
- ・ 世帯の状況
- ・ 住居の状況

## （2）研究会の実施

新宿区のまちの魅力の研究の参考とするため、有識者を招いた研究会を開催した。

- ・ 第 1 回 2016（平成 28）年 7 月 8 日（金）14 時～16 時  
講師：トラベルザ・ヨーロッパ（JTB グループ欧州地域本社）  
事業戦略部長 小林 裕和 氏  
内容：訪日外国人をはじめとする観光客の動向について研究するため、グローバル観光に精通している専門家を講師とし、インバウンドを中心とする都市観光の現状と課題、今後の見通しなどを学び、研究活動の参考とした。
- ・ 第 2 回 2017（平成 29）年 2 月 21 日（火）13 時～14 時 30 分  
講師：首都大学東京 都市環境学部 助教 武岡 暢 氏  
内容：歌舞伎町を都市社会学的観点から研究した専門家を講師とし、繁華街研究の研究手法の参考のための話をうかがった。講師の博士論文をもとにした著作である『生き延びる都市・新宿歌舞伎町』を中心に、その内容を聞き質疑を行った。

## （3）研究所勉強会の実施

研究所スタッフの能力向上を図るため、所長、副所長、研究員による課題報告を中心とする勉強会を実施した。

- ・ 第 1 回 2016（平成 28）年 5 月 17 日（火）10 時 30 分～12 時  
内容：金安所長による課題報告「研究者心得留」
- ・ 第 2 回 2016（平成 28）年 5 月 24 日（火）10 時 30 分～12 時  
内容：渡部研究員による課題報告「研究活動報告－文化芸術と地域社会－」
- ・ 第 3 回 2016（平成 28）年 6 月 14 日（火）10 時 30 分～12 時  
内容：阿部研究員による課題報告「持続可能なにぎわいづくり－新宿区の魅力を活かして－」
- ・ 第 4 回 2016（平成 28）年 6 月 28 日（火）10 時 30 分～12 時  
内容：村上副所長による課題報告「就業が都市の高齢者の健康状態に与える影響」
- ・ 第 5 回 2016（平成 28）年 7 月 12 日（火）10 時 30 分～12 時  
内容：大谷研究員による課題報告「『夜と霧』について考える」

- ・第6回 2016（平成28）年8月9日（火）10時30分～12時  
内容：田中研究員による課題報告「まちの魅力と居住の関係  
－国勢調査と地域ブランド調査のデータから－」

## 2 講演会等の開催

### （1）第1回職員向け講演会

- 日時：2016（平成28）年9月6日（火）10時～12時
- 会場：第一分庁舎研修室
- 講演：「自治体における経営戦略－スターボックスの事例から考える－」
- 講師：梅本 龍夫／立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科特任教授
- 趣旨：職員研修の一環として、区職員が新たな発想、幅広い知識を学び、政策形成能力を向上させることを目指す。
- 参加者：区職員 44 人（うち研究所は、金安所長、村上副所長、研究員 4 人）
- 内容：自治体においても必要とされる経営戦略や組織マネジメントについて、講師からスター・ボックス・コーヒーの日本進出時の経営コンサルタントの経験事例を基に講義いただき、学習した。
- 満足度：参加者アンケートによる講演の満足度は、「満足」と「まあ満足」を合わせて 94%

### （2）第2回職員向け講演会

- 日時：2017（平成29）年3月22日（木）10時～12時
- 会場：人材育成センター研修室 A
- 演題：「人口減少社会の展望－全国の将来人口と新宿区の人口動向－」
- 講師：大江 守之／慶應義塾大学総合政策学部教授  
田中研究員
- 趣旨：職員研修の一環として、区職員が新たな発想、幅広い知識を学び、政策形成能力を向上させることを目指す。
- 参加者：区職員 28 人（うち研究所は、金安所長、村上副所長、研究員 4 人）
- 内容：研究所から 2015 年国勢調査結果の報告（新宿区の人口動向）を行った後、政策立案や区政運営に大きく関わる人口減少社会の実態と課題について、人口問題の専門家から講義いただき、学習した。
- 総合評価：参加者アンケートによる総合評価は、「良い」と「まあ良い」を合わせて 100%

### （3）職員向け講座（計4回）

- 日時：2016（平成28）年12月2日（金）14時～17時、6日（火）9～12時、  
9日（金）14～17時、16日（金）9～12時
- 会場：人材育成センター研修室 B
- 演題：「政策立案のための統計データの活用（基礎講座）」
- 講師：研究所スタッフ（金安所長、田中研究員、渡部研究員）
- 趣旨：研究所の調査研究に関する課題（今回は統計データ分析）について、職員がより理解を深め、それぞれの業務における政策立案につなげることを目指す。
- 参加者：区職員 61 人（うち研究所は、金安所長、村上副所長、牧瀬アドバイザー、研究員 4 人）
- 内容：研究所スタッフが、政策立案や課題解決のために必要となる統計データの活用に関する

講義を行うとともに、パソコン(エクセル)による実習を行うことで、データの収集、整理、分析といった一連のデータ活用の基礎的なスキルを学習した。  
総合評価：参加者アンケートによる総合評価は、「良い」と「まあ良い」を合わせて96%

#### (4) 新任研修(講師)

日 時：2016(平成28)年5月18日(水)13時40分～14時30分  
会 場：第一分庁舎研修室  
趣 旨：新任職員に新宿区職員としての基礎的知識・情報を身につけてもらう。  
講 師：田中研究員  
参加者：区職員(新規採用職員)134人  
内 容：新規採用職員研修として、「データでみる新宿区の姿」をテーマに、研究所レポートからデータを抜粋し、新宿区の人口・世帯の現状、課題、将来見通しなどを講義した。

#### (5) 職場研修(講師)

日 時：2016(平成28)年5月30日(月)18時～20時  
会 場：第一分庁舎研修室  
趣 旨：庁内の職場研修の講師として、区職員に新宿区の人口のかかる基礎的な知識・情報を身につけてもらう。  
講 師：田中研究員  
参加者：区職員22人  
内 容：福祉部地域包括ケア推進課の職場研修の講師依頼を受け、課職員を対象に、「人口からみる新宿区の姿」をテーマに、研究所レポート等からデータを抜粋し、新宿区の人口・世帯の現状、課題、将来見通しなどを講義した。

#### (6) 区長と話そうしんじゅくトーク(説明)

日 時：2016(平成28)年10月28日(金)19時～21時  
会 場：角筈地域センター  
趣 旨：各地域の課題についてテーマを設定し、区長と区民が意見交換を行うもので、テーマを区長と区民で共有するため、担当部署による事業説明を行う。  
講 師：村上副所長  
参加者：26人  
内 容：角筈特別出張所からの依頼を受け、「変わるこのまちを考えるためにー人口推計からみる角筈地区ー」をテーマに、角筈地区の人口、世帯、住宅の動向と将来見込みについて、区全体や他の地域との比較データを作成し、区民に説明した。

#### (7) 公共マーケティング研修(講師)

日 時：2016(平成28)年6月15日(水)9時～17時  
会 場：第一分庁舎研修室  
趣 旨：職員研修の一環として、区職員に政策形成、事業計画、事業実施に必要な考え方を学んでもらう。  
講 師：牧瀬政策形成アドバイザー  
参加者：29人  
内 容：区職員の政策形成能力向上に向けて、研究所アドバイザーが区民ニーズリサーチの方法やニーズ分析、政策課題等について区職員に演習した。

### (8) 現任中級研修（講師）

日 時：2016（平成 28）年 12 月 6 日（火）、14 日（水）、21 日（水） 9 時～17 時

会 場：人材育成センター研修室 A

趣 旨：職員研修の一環として、中堅職員にその立場と役割を認識し、集団で仕事をしていく  
うで重要なコミュニケーション能力のスキルアップを図ってもらう。

講 師：牧瀬政策形成アドバイザー

参加者：90 人

内 容：区職員の政策形成能力向上に向けて、研究所アドバイザーが問題解決までのプロセス  
と中堅職員の役割や全国の特徴的な条例について区職員に演習した。

## 3 SHIPS 通信の発行

### (1) 趣旨

区職員に研究所の活動を周知するため、情報発信誌「SHIPS 通信」を発行した。

### (2) 主な内容

**第 18 号**：2016（平成 28）年 8 月発行

- ・研究所レポート 2015 の概要
- ・第 1 回職員向け講演会（9/6）の開催案内
- ・今年度の研究所の活動内容
- ・今年度の研究所の体制
- ・新宿区自治フォーラム 2016（3/19）の実績報告
- ・平成 27 年度職員向け講演会（12/15）の実績報告
- ・平成 27 年度職員向け講座（3/30）の実績報告

**第 19 号**：2017（平成 29）年 1 月発行

- ・「政策立案のためのデータ活用の手引き」の概要
- ・「研究所データベース」の概要
- ・職員向け講座「データ活用基礎講座」（12 月）の実績報告
- ・「2015 年国勢調査・人口等基本集計結果－新宿区の概要－」の概要
- ・第 1 回職員向け講演会（9/6）の実績報告
- ・研究所コラム（金安所長）

## 4 政策立案支援

### (1) 政策立案のための統計データの活用

区職員が政策立案にあたり、統計データを適切に収集・分析できるよう、以下の取組を通  
し、研究所のデータ活用ノウハウを職員に広く伝えた。

#### ① 研究所データベースの整備

これまで公表した研究所レポートのデータや、国勢調査や経済センサス等の公的統計、住  
民基本台帳人口の推移などの新宿区のデータをエクセルデータとして収集・整理し、デー  
タベースとして整備した。

## ②職員向け講座の開催

2016年12月に「政策立案のための統計データの活用」をテーマに、職員研修の一環として基礎講座を実施した（詳細は、「2(3)職員向け講座」を参照）。内容は、データ活用の意義、統計学の基礎、グラフ作成の基本、データ分析の応用などで、研究所スタッフによる講義とパソコンによる実習を行い、各回15人定員で計4回（各回3時間）実施した。

## ③「政策立案のための統計データ活用の手引き」の作成

数字やデータが苦手な職員でも、政策立案に向けて統計データを用いて現状把握や課題分析を行い、客観的な資料を作成することができるよう、データ活用の基礎的な手引書（庁内公開用）を作成（62P）し、庁内に配信した。

## （2）庁内各課の政策立案支援

庁内各課からの要望に基づき、政策立案のためのデータの作成・提供や助言等を随時行うもので、2016年度は主に以下の支援を行った（支援件数12件）。

- ・健康部（保健センター）の保健師による母親講習会に向けた資料要望に基づき、外国人を中心とした地域別人口データを作成・提供した。
- ・健康部による幼児歯科予防対策に向けたデータ要望に基づき、0～6歳の地域別コーホート人口の推移の資料を作成・提供した。
- ・福祉部による高齢者に関する協議会に向けた資料要望に基づき、新宿区の75歳以上の高齢単身者の地域別将来推計人口を抽出し、資料を作成・提供した。
- ・教育委員会事務局による学校運営に関する協議会に向けた資料要望に基づき、研究所が作成した住民基本台帳人口推計を基に、地域別の5歳、11歳人口を抽出し、資料を作成・提供した。
- ・都市計画部による都市マスタープラン作成に向けた資料要望に基づき、国の地域経済分析システム（RESAS）を用いて作成できる新宿区分データについて調査し、資料を作成・提供した。
- ・総合政策部による総合計画策定に向けた資料要望に基づき、2015年国勢調査結果による35～49歳の未婚率と全国市区町村におけるランキングデータを作成・提供した。
- ・総合政策部による予算プレス発表に向けた若者人口に関する資料要望に基づき、国勢調査人口の年齢5区分別人口と構成割合の推移の資料を作成・提供した。

ほか

## 5 学会等への参加・報告・寄稿

### （1）日本家族社会学会大会への参加

日時：2016（平成28）年9月11日（日）8時30分～10時30分

場所：早稲田大学戸山キャンパス33号館

テーマ：人口集中する大都市圏の人口移動と単身世帯化—新宿区の人口・世帯動態と増加する壮年単身者の実態—

内容：昨年度までの研究テーマである単身世帯の実態について、研究所の研究成果を基に、研究所の元研究員、アドバイザー等による学会報告に資料提供するとともに参加・視聴した。

- ・公的統計から描き出される新宿区の実態：大江守之／慶應義塾大学教授（研究所ア

ドバイザー)

・意識調査からみる単身者の特徴－単身者の社会的孤立－：丸山洋平／福井県立大学  
(研究所元研究員)

・聴き取り調査からみる単身者の特徴－経済的安定度と社会的孤立のリスクから－  
：宮本みち子／放送大学教授 (研究所元アドバイザー)

参加者：田中研究員

## (2) 情報文化学会への参加・報告

日 時：2016 (平成 28) 年 11 月 5 日 (土) 14 時 30 分～16 時

場 所：東京大学山上会館

テーマ：都心 5 区の文化・創造産業の集積実態に関する考察－文化・創造産業に着目した都市  
の個性化戦略に関する研究－

内 容：「新宿区のまちの魅力の研究」における研究過程の知見について学会で報告した。

参加者：渡部研究員

## (3) 日本計画行政学会・社会情報学会共催、若手研究交流会への参加・報告

日 時：2017 (平成 29) 年 3 月 4 日 (土) 10 時～12 時

場 所：一橋大学

テーマ：都市の魅力研究における研究手法の構築への試み－新宿区の研究を事例にして－

内 容：「新宿区のまちの魅力の研究」における研究過程の知見について交流会で報告した。

参加者：阿部研究員、渡部研究員

## (4) 座談会への参加

日 時：2016 (平成 28) 年 6 月 30 日 (木) 14 時 45 分～16 時 15 分

場 所：早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

テーマ：文化の街・新宿の歴史と未来－街を支えるリーダーたち－

内 容：「新宿区のまちの魅力の研究」の参考とするため、文化と老舗企業の経営戦略とが深く  
結びついて発展してきた街・新宿の過去・現在・未来の語り合いを視聴した。

参加者：田中研究員、渡部研究員

## (5) 時事通信社「地方行政」への執筆

日 時：2016 (平成 28) 年 9 月 1 日号、9 月 8 日号「地方行政」

テーマ：自治体シンクタンクの理論と実践

内 容：牧瀬アドバイザーの監修のもと、研究所の概要と研究成果について、2 回にわたり雑  
誌に掲載した。

### ①政策データの構築に特化した自治体シンクタンク

- ・新宿区新宿自治創造研究所とは
- ・新宿区で暮らす外国人の生活実態と課題

### ②政策データというエビデンスに基づいた政策作り

- ・新宿区将来人口推計・世帯推計の作成
- ・新宿区の単身世帯の特徴
- ・今後の展望

なお、「地方行政」での記事は、他の自治体シンクタンクの記事と合わせて、時事通信オン  
デマンドブックレットNo.76『自治体シンクタンクの理論と実践』(時事通信社／2017 年 3 月  
31 日発行)として刊行した、

## 6 他自治体・シンクタンクとの交流

### (1) 第9回特別区シンクタンク等交流会

日 時：2016（平成28）年6月20日（月）14時～16時

場 所：東京区政会館

内 容：各区シンクタンク等の活動状況や調査研究テーマ、調査研究における諸課題等についての情報交換・意見交換を行った。（世田谷区、港区、荒川区、大田区、新宿区、特別区協議会が参加）

参加者：田中・大谷研究員

## 7 新宿区自治フォーラム2017

日 時：2017（平成29）年3月18日（土）13時30分～16時30分

場 所：新宿文化センター3階小ホール

テーマ：「新宿区のまちの魅力とブランドづくり」

内 容：

### ① 報告（30分）

- ・開会の挨拶：針谷担当部長
- ・新宿区の紹介：菅野企画政策課長
- ・研究成果報告「新宿区のまちの魅力」：村上研究所副所長

研究所では新宿の魅力とブランド力を高めるための調査研究を本年度から2年間、行っており、本年度の研究成果をまとめた研究所レポートから、にぎわいの実態把握と意識面からみる魅力の分析の概要を報告し、最後に、人々が評価している新宿区の特徴を「利便性」と「特異性」と総括した。

### ② 講演（50分）

- ・「地域ブランド戦略とこれからの新宿区」

牧瀬 稔／一般財団法人 地域開発研究所上席主任研究員（研究所アドバイザー）

牧瀬氏は、「ブランドとは差別化という意味があり、ブランド化に成功すると『選ばれる』可能性が高まる。ただし、地域ブランドは手段であり、目標ではない。目標には、定住人口獲得、交流人口増大、シビックプライド醸成、企業誘致進展などが考えられ、新宿区が何を目指すのかを明確にする必要がある」と話された。また、「新宿区には既に様々なブランドやイメージがあるが、一つひとつのイメージが強烈すぎるものが課題かもしれない。イメージとしては、富士山がいくつもあるという感じ」、「新宿区のブランド力は様々な面で全国の中でトップクラスにあるが、居注意欲度は23区の中で高くない。今後これを強くしていくのか、今強いブランド指標をより強くしていくのか、考える必要がある。」と指摘された。最後に、これからの新宿区のブランド戦略として、「既存のブランドを関連づける戦略、現在の個性あるブランドをさらに磨きあげる戦略、現在のブランドを一度否定して新しいブランドを形成する戦略などがあり、それを考えていく必要がある」と提言された。

### ③ パネル・ディスカッション（80分）

<パネリスト>

- ・牧瀬 稔／一般財団法人 地域開発研究所上席主任研究員（研究所アドバイザー）
- ・小林 裕和／(株) JTBグループ本社グローバル事業本部

- ・大森 徹哉／新宿～御苑～四谷タウン誌『JG』発行人
- ・菊地 加奈江／一般社団法人 新宿観光振興協会事務局長

#### <コーディネーター>

- ・金安 岩男／慶應義塾大学名誉教授（新宿自治創造研究所長）

金安所長から「新宿のスポットが多く登場するアニメ映画『君の名は』が大ヒット中であり、区民にとっても興味深いものであろう。今日はいろいろな立場から新宿の魅力について考えていきたい」との導入があり、小林氏は、「新宿の魅力は『カオス』的でありながら逆にホッとするとところ。雑然としている分、個人を受け入れてくれる感じがする」、「都市には様々な人が多様な目的で来ており、それを受け入れられることが都市観光の要件の一つ」と話された。大森氏は、「新宿はコンテンツが充実しており、劇場やギャラリー、映画館などが多く、色々な文化の受け皿になっている」、「地域プロデューサーは新宿では成り立たない。新宿は地域の地場の力や民間の活力が強いからであり、行政は民の力を認めることが必要」と話された。菊地氏は、「新宿の魅力は『多様性』であり、それは逆に魅力を一つに絞れないため、情報発信のプロモーションを戦略的にやらなければならない難しさがある」、「新宿を知れば知るほど魅力が見つかる。エリアごとに特性があり、昔からまちの人が大事にしているものがある一方、最先端のものがある」などと話された。

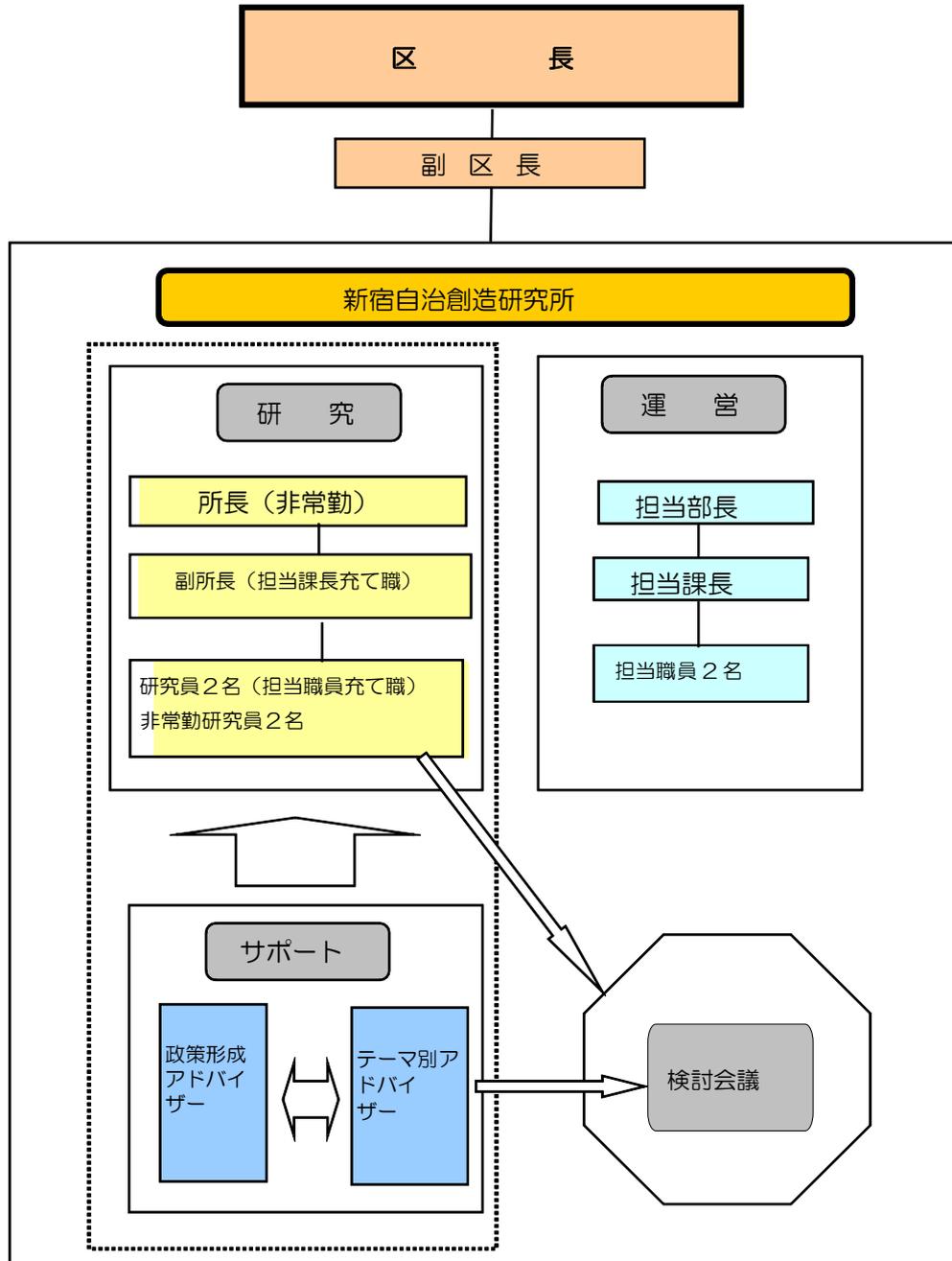
最後に参加者からの「芸術・文化がまちに魅力につながる理由は」の質問に対し、小林氏が「都市観光の魅力に芸術・文化は欠かせない。芸術・文化はまちの品格に関わる重要な要素」と答えられ、また、「事業所が多いエリアは平日は賑わっているが、休日は閑散していることをどう考えるか」の質問に対し、大森氏が「そうしたエリアは確かに休日になると閑散とするが、それを新宿の多面性の一つとして認めてもよいのではないか」などと答えられた。そして金安所長の挨拶の後、閉会となった。

参加者：区民等 70 人

満足度：参加者アンケートによる講演の満足度は、「満足」と「ほぼ満足」を合わせて 97%

## 8 資料

### (1) 組織図



#### 〔役割〕

- ・所長 …研究の統括
- ・副所長 …研究所内の事務的管理
- ・政策形成アドバイザー…研究全体の進捗管理、アドバイス
- ・テーマ別アドバイザー…各テーマの方向付け、アドバイス
- ・担当部長、担当課長…研究所に関する事務

## (2) 研究体制

役職名	氏名	資格・専門等	役割	
担当部長 (兼務)	針谷 弘志	総合政策部長	担当部事務総括	運 営
担当課長 (兼務)	村上 京子	総合政策部副参事	担当課事務総括	
所長	金安 岩男	慶応義塾大学名誉教授 専門分野：地理学、計画実践論、 プロジェクト発想法	研究の統括	研 究
副所長	村上 京子 (再掲)	担当課長	研究所内の事務 的管理	
主任研究員	田中 雅美	研究主査	研究・調整	
研究員	大谷 博之	主任主事	研究・庶務	
非常勤研究 員	阿部 名保子	博士(学術) (平成28年5月1日～)	調査研究	究
	渡部 春佳	修士(社会情報学) (平成28年5月1日～)	調査研究	
政策形成 アドバイザー	牧瀬 稔	一般財団法人地域開発研究所上席主任研究員 法政大学大学院公共政策研究科兼任講師 博士(人間福祉) 専門分野：地方自治、地域政策、行政学	研究全体の進捗 管理、アドバイ ス	サ ポ ー ト
テーマ別 アドバイザー	大江 守之	慶応義塾大学総合政策学部教授 博士(工学) 専門分野：都市人口学、都市・住宅政策	テーマ研究の指 導、アドバイス	

## (3) これまでの研究成果物

※ ◎は冊子、◆はホームページのみで公開

### <平成20年度>

◎2008(平成20)年度 新宿自治創造研究所活動報告書 (平成21年3月)

### <平成21年度>

◎2009(平成21)年度 新宿自治創造研究所活動報告書 (平成22年3月)

◎都市・自治にかかる情報と分析—データの読み方— (平成22年3月)

### <平成22年度>

◎研究所レポート2010 外国人WG報告(1) (平成22年12月)

◎研究所レポート2010 人口WG報告(1) (平成23年2月)

◎研究所レポート2010 集合住宅WG報告(1) (平成23年3月)

#### <平成 23 年度>

- ◎研究所レポート 2011 集合住宅WG報告 (2) (平成 23 年 11 月)
- ◎研究所レポート 2011 外国人WG報告 (2) (平成 23 年 11 月)
- ◎研究所レポート 2011 集合住宅WG報告 (3) (平成 24 年 1 月)
- ◎研究所レポート 2011 外国人WG報告 (3) (平成 24 年 1 月)
- ◎研究所レポート 2011 人口WG報告 (2) (平成 24 年 3 月)
- ◎研究所レポート 2011 人口WG報告 (3) (平成 24 年 3 月)

#### <平成 24 年度>

- ◆2010 年国勢調査 人口等基本集計結果 (新宿区の概要) (平成 24 年 8 月)
- ◆2010 年国勢調査 産業等基本集計結果 (新宿区の概要) (平成 24 年 8 月)
- ◆2010 年国勢調査 従業地・通学地による集計結果 (新宿区の概要) (平成 25 年 1 月)
- ◆2010 年国勢調査 職業等基本集計結果 (新宿区の概要) (平成 25 年 1 月)
- ◎研究所レポート 2012 No.1 国勢調査データからみる新宿区の特徴 (平成 25 年 3 月)
- ◎研究所レポート 2012 No.2 国勢調査に基づく新宿区将来人口推計  
ー将来の住宅供給を考慮したコーホート・シェア延長法によるー (平成 25 年 3 月)

#### <平成 25 年度>

- ◎研究所レポート 2013 No.1 国勢調査に基づく新宿区将来人口推計ー地域別推計ー (平成 26 年 1 月)
- ◎研究所レポート 2013 No.2 国勢調査に基づく新宿区将来世帯推計 (平成 26 年 3 月)
- ◎研究所レポート 2013 No.3 新宿区の単身世帯の特徴ー壮年期を中心としてー (平成 26 年 3 月)

#### <平成 26 年度>

- ◆住民基本台帳に基づく新宿区将来人口推計 (平成 26 年 10 月 1 日基準日) (平成 27 年 3 月)
- ◎研究所レポート 2014 No.1 新宿区の人口移動 (平成 27 年 3 月)
- ◎研究所レポート 2014 No.2 新宿区の単身世帯の特徴 (2) ー単身世帯意識調査結果からー (平成 27 年 3 月)

#### <平成 27 年度>

- ◎新宿区人口ビジョン (新宿区企画政策課発行) (平成 28 年 1 月)
- ◎研究所レポート 2015 No.1 新宿区の単身世帯の特徴 (3) ー壮年期・高齢期の生活像ー (平成 28 年 3 月)
- ◎研究所レポート 2015No.2 データでみる新宿区の姿 (平成 28 年 3 月)

#### <平成 28 年度>

- ◆2015 年国勢調査 人口等基本集計結果 (新宿区の概要) (平成 29 年 1 月)
- ◎研究所レポート 2016 新宿区のまちの魅力 (1)  
ーにぎわいの実態把握と意識面からみる魅力の分析ー (平成 28 年 3 月)